



## もくじ

### 展示紹介

SHONAN LEGACY ENOSHIMA UKIYO-E 江の島浮世絵大集合	P 1
さまざまな江の島のかたち	P 2
令和2年度の浮世絵館事業報告(抄)	P 4
浮世絵こぼれ話12 屏風に描かれた江の島	P 5
二代目オニカゲ学芸員のページ④『奇想の系譜』と江の島	P 6
浮世場なれ/編集後記	P 6

## SHONAN LEGACY ENOSHIMA UKIYO-E

# 江の島浮世絵大集合

会期 2021年7月20日(火)~9月5日(日)

藤沢市の最南、相模湾に浮かぶ江の島は、初期の浮世絵では、朝日や富士山とセットになった縁起絵や、美人画や役者絵の背景として鑑賞されてきました。江戸中期以降、庶民の旅も盛んになり、十返舎一九作『東海道中膝栗毛』(1802年~)が人気を博し、歌川広重の「東海道五拾三次之内(保永堂版)」(1833年頃~)がヒットするなど、名所(観光スポット)ブームが到来すると、江の島も江戸から至近の代表的な名所の一つとして、様々に描かれるようになり、その姿かたちだけでなく、参詣の道や道中風俗も画題となりました。

本展では、湘南の景観のレガシーともいえるべき「江の島浮世絵」を一堂に集め、先人の熱いまなざしを今に伝えるべく、優品の数々をご紹介します。



図1 歌川国芳「相州江之嶋之圖」(弘化~嘉永期 [1844~1854])

# さまざまな江の島のかたち



図2 勝川春章「相州江之島ノ風景腰越ノ方ヨリ見図」  
(天明年間[1781-1789])



図3 葛飾北斎「富嶽三十六景 相州江の島」  
(天保年間[1830-1844])

## ●「縁起物」江の島

江の島は、富士山や日の出などとともに「お目出たい」図柄として扱われる際、しばしば、中国の神仙思想に描かれる「蓬莱山」になぞらえて描かれます。図2はその典型例。日の出は紅に染まる雲で象徴されます。

## ●「女性も旅する」江の島

江戸も文化・文政期になると、江戸からの小旅行が流行ってきますが、関所を越える旅は女性にとって大きな関門となっていました。その点、江の島は関所を越さずに行け、江戸から1、2泊という近さがウリで、女性の旅行者に人気がありました。

図4は喜多川歌麿「風流四季の遊 弥生の江之島詣」。江戸の商家の女房が若衆の伴を連れての江の島詣の図。図5は参詣に来た女性と地元の漁師に扮した女性を描いたものです。美人画に名所地(江の島)の名物や風俗を加えて、観光ポスターのような趣です。土地の女性は江の島・鎌倉名産のアワビや大海老を持ち、周りには撒き銭をねだる子どもたちがにぎやかです。旅の女性たちの羽織の大胆な絵柄のファッションも見る者の目を楽しませています。



図4 喜多川歌麿「風流四季の遊 弥生の江之島詣」(享和年間[1801-1803])



図5 歌川国芳「七里ヶ浜より江のしまの遠景」(弘化4-嘉永5年[1847-1852])

### ●岩屋側から見た江の島

名所絵としての江の島は、図2のように陸地側から描かれることが一般的ですが、人々の参詣が盛んになると、参詣の中心である岩屋=本宮側も描かれるようになります。図1・図6はともに岩屋の側からの様子。図6



図6 喜多川月磨「相州江ノ嶋巖屋の図」(文化5年[1808])

では、中央下部に陣取る「主人」を多くの女性や太鼓持ちなどが取り巻き、宴を催しています。右手の洞窟には松明を掲げた参詣者が見え、手前には、釣り竿を持つ人や海産物を売る海女などが描かれ、「参詣」の様相がより具体的に示されています。

### ●近代の江の島

明治になり、写真の登場や洋画の影響、人々の景観に対する意識の変化を受けて、風俗として描かれていた"浮世絵の江の島"は、離れて眺める抒情に満ち、美しく描かれる"絵画"になっていきます。図7は川瀬巴水の新版画(大正、昭和初期のリバイバル浮世絵)です。輝く満月が海面を照らし、月明かりを頼りに男女が七里が浜を散歩する様子が描かれています。巴水は、日本各地を写生旅行し、その土地に暮らす人々の生活や四季折々の風景を诗情あふれる作品にして多く残しました。

一方、風景は抒情から切り離され、観光アイテムとしての変化も遂げますが、鳥瞰図などの地図的な表現に、浮世絵の表現が残されているものも見られます。図8では、「真景」として実際に写し取ろうとする鳥瞰図的な銅版画に、浮世絵のごとく、西のかなたに位置する「富士山」が描きこまれています。

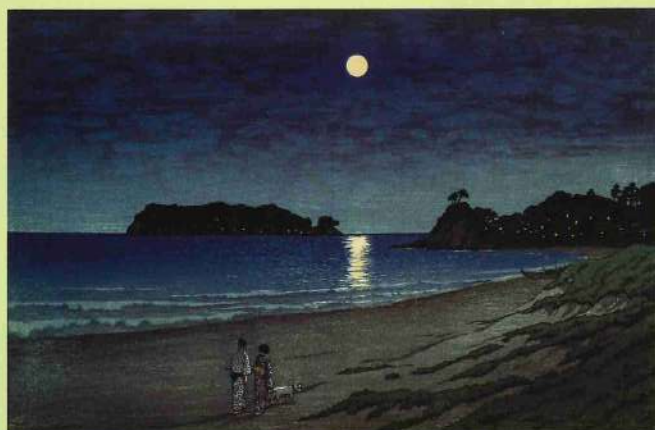


図7 川瀬巴水「相州七里が浜」(昭和5年[1930])



図8 壬生昌延編集兼発行「相州江之島真景」(明治30年[1897])銅版多色摺

# 令和2年度の浮世絵館事業報告(抄)

コロナ禍に明け暮れた令和2年度ですが、次のような事業で、皆さまにお楽しみいただきました。

## ・展示会

### 1、「御上洛東海道と幕末の浮世絵」

会期：前期：4月18日(土)～7月5日(日)(※新型コロナウイルス感染症対策のため一時閉館。)

後期：7月14日(火)～8月30日(日)

#### 主な事業

- ・展示解説ムービー「御上洛東海道と幕末の浮世絵」(1・2・3)を制作・配信 5月上旬～下旬



### 2、「浮世絵で富士山を眺めるー江の島から・東海道からー」

会期：9月12日(土)～10月25日(日)

#### 主な事業

- ・関連講演会「相模の富士講・藤沢の富士講」9月26日(土)  
講師：平野雅道氏(歴史研究家)、大野一郎氏(厚木市あつぎ郷土博物館館長)
- ・藤沢市生涯学習大学放送通信コース「藤沢浮世絵八景～学芸員が選ぶ浮世絵館コレクションの8枚」放送  
学芸員4名による放送レクチャー。8月11日～9月29日(全8回)  
同スクーリング10月9日(金)(リモート講座)  
講師：藤澤茜氏(国際浮世絵学会常任理事・神奈川大学准教授)



### 3、「相模を描いた浮世絵と狂歌摺物」

会期：10月31日(土)～12月13日(日)

#### 主な事業

- ・関連講演会「浮世絵と地域文化」11月14日(土)  
講師：大久保純一氏(国立歴史民俗博物館副館長・町田市国際版画美術館館長)
- ・ワークショップ「木版画で摺る浮世絵年賀状づくり」12月5日(土)  
講師：若林豊氏(元藤沢市中学校美術科教員)

### 4、「《市制施行80周年記念》藤沢トラフィック 浮世絵の道から鉄道と道路の記憶」

会期：12月22日(火)～2021年3月14日(日)※新型コロナウイルス感染症対策のため一時閉館。

- ・関連展示 市民ギャラリー常設展示室「市制施行80周年記念 藤沢トラフィックー鉄道のおもいでー」

会期：12月22日(火)～2021年2月28日(日)※新型コロナウイルス感染症対策のため一時閉館。



### 5、「相模を舞台にした歌舞伎と浮世絵 白浪五人男・曾我物語」

会期：2021年3月20日(土)～5月5日(水)

#### 主な事業

- ・関連企画 市民ギャラリー展示室「藤沢市新収蔵資料寄贈記念～番場浮世絵コレクション展～」  
故番場定孝氏のご遺族から同氏浮世絵コレクションをご寄贈賜りました。

会期：2021年3月9日(火)～3月14日(日)

- ・ワークショップ「なつかしのガリ版でつくる文字とイラスト」  
2021年3月27日(土)

講師：姉齒康光氏(かながわ美術教育みらい研究会)

- ・クラシック音楽と浮世絵の日～藤沢にゆかりのある音楽家たちシリーズ 地域出張編～(共催：(公財)藤沢市みらい創造財団)  
3月28日(日)出演：山縣郁音氏(ヴァイオリン)、松本亜優氏(チェロ)



浮世絵年賀状づくりのようす

## 屏風に描かれた江の島



伝喜多川歌政「題名不詳（七里が浜より見た江の島風景図）」6曲1隻

こちらの屏風には七里が浜から江の島、富士山、小動岬を望む景色が描かれています。左の奥のほうにうっすらと見えているのは房総半島です。浜辺には旅人や荷担ぎの人が集っており、茶屋も見られます。二頁目でご紹介したように、右から三面目(第三扇)には旅をする女性の様子も描かれており、当時の賑わいが伝わってくる作品です。

中央(第四扇)に描かれている江の島は今の江の島に比べると丸い形になっています。江戸時代はこのような形の江の島が描かれることが多かったようで、二頁目でご紹介した蓬莱山というほどではありませんが、やはり崇高な佇まいを思わせる効果がありました。

さて、こちらの屏風は画面上ではぼんやりと薄暗い色合いに見えているかと思えます。これは画質が悪いため……というわけではなく、屏風に銀砂子として散らされていたものが硫化してしまったためだと考えられます。つまり、屏風に散らされていた銀が、空気中にある硫黄成分と反応して硫化銀という新しい物質になってしまったということになります。そしてその硫化銀が黒い色をしているため、こちらの屏風が全体的に黒く沈んだ調子に見えるのです。

こちらに載せている図や実際展示されている図では下方の波頭だけが目立っていますが、銀砂子が空や海、富士山の周りに散らされている様子からすると、制作された当時は画面全体が明るく輝いて見えていたかもしれません。



部分図（黒い点が硫化銀か）



二代目オニカゲ学芸員のページ④  
『奇想の系譜』でみる江の島

美術史家の辻惟雄氏による『奇想の系譜』(1970年)を紹介いたします。この書籍は、素晴らしい作品を残しつつも、独創的な発想であるがゆえに歴史上での位置づけが難しく、後世の研究者が作り出した日本美術史の系譜から外れてしまった6人の江戸の絵師に焦点を当てています。数年前には、東京都美術館で開催された『奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド』も話題となりました。

奇想の絵師のうち紹介されている1人が、歌川国芳です。今期展示中の「相州江之嶋之図」(図1)について、辻氏は「猟奇的風景画」(!)と述べています。前項で述べた通り、本図は岩屋の様子を描いており、同様の構図は他の作品にも散見しますが、本図が異質とされる訳は、江の島の形にあります。江の島の全景が画面いっぱいに捉えられ、岩肌はまるで大きな岩の塊のよう。辻氏は「江の島の〈妖怪〉に仕立てられてしまっている」と言います。当館で所蔵する江の島浮世絵は、富士山を背景に七里ガ浜から江の島を臨む牧歌的な風景を捉えた作品が多いですが、「相州江之嶋之図」はその中でも異彩を放ち、一度見たら忘れられない作品です。

『奇想の系譜』は、2018年には新版が発売されました。新版に掲載されている「相州江之嶋之図」は、藤沢市所蔵の作品です。本作は、既存の価値観や固定観念に捕らわれず、歴史に埋もれた絵師を発掘する前向きな姿勢を読者に教えてくれる一冊です。



編集後記

令和2年度の事業報告作成にあたり振り返ると、展示会やイベントの延期が散見され、イレギュラーな1年でした。そうした状況下での運営を模索しながらも、当館は今年で開館5年目を迎えます。5年間の中で展示を通じ様々な所蔵作品を見ていただきましたが、今号では、当館の収集方針の一つでもある「江の島浮世絵」の多様な表現や絵師の創意工夫を改めて見つめ直す良い機会となりました。湘南のレガシー(遺産)を忘れずに、後世にも郷土資料を残していけるような活動をこれからもしてまいります。

編集・発行：藤沢市藤澤浮世絵館

【住所】〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台2丁目2番2号ココテラス湘南7階

【電話】0466-33-0111 【FAX】0466-30-1817

【開館時間】10:00~19:00 (入館は18:30まで)

【休館日】月曜日(祝日、振替休日の場合は翌平日)

※その他、展示替えのために休館日がございます

【HP】 [藤沢市藤澤浮世絵館](#) で検索 Q

